

**製品名: PKM ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86250**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.55mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:20-1:50, FC 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 58 kDa; Observed MW: 58 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PKM
別名	PK3; TCB; OIP3; PKM2; CTHBP; THBP1; HEL-S-30
遺伝子 ID	5315
SwissProt ID	P14618
免疫原	ヒト PKM の合成ペプチド

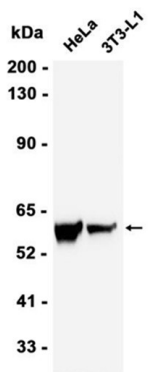
**背景**

この遺伝子は解糖系に関与するタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質はピルビン酸キナーゼであり、ホスホ

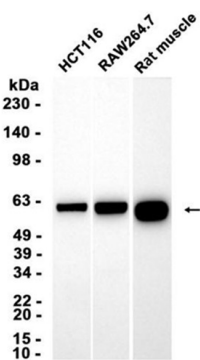
エノールピルビン酸から ADP へのリン酸基の転移を触媒し、ATP とピルビン酸を生成します。このタンパク質は甲状腺ホルモンと相互作用することが示されており、甲状腺ホルモンによって誘導される細胞代謝効果を媒介する可能性があります。このタンパク質は、淋菌のヒト細胞への付着および侵入に関与する細菌外膜タンパク質である Opa タンパク質に結合することが分かっており、このタンパク質が細菌の病原性において役割を果たしていることを示唆しています。いくつかの異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]

## 研究分野

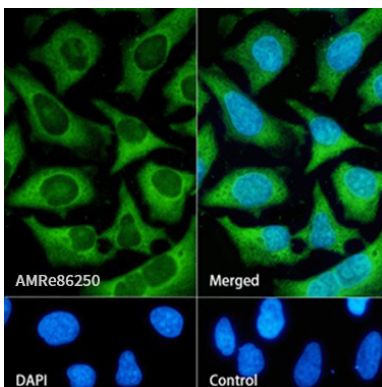
## 画像データ



PKM ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して HeLa、3T3-L1 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。



AMRe86250 を 1:5000 で使用して、HCT116、RAW264.7 細胞およびラット筋肉組織からの抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。



AMRe86250 で PKM を標識した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。